

令和 4 年 9 月 1 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02515

研究課題名（和文）道徳力アンケートとはがき新聞を用いた道徳科単元学習の開発研究

研究課題名（英文）Research and Development of the Moral Education Units in use of the Moral Competencies Questionnaire and Postcard Newspapers

研究代表者

田中 博之（TANAKA, Hiroyuki）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：20207137

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、新学習指導要領によって教科化された「特別の教科 道徳」（以降、道徳科と称す）において、2時間小単元を構成して実施する道徳ワークショップという新しい学習方法の特徴と成立条件を、研究授業の開発と評価を通して実証的・実践的に明らかにすることを目的とした。具体的には、2時間小単元における特有な学び方としてワークショップ学習を取り入れ、道徳ワークショップという学習原理を新たに構成して、国内の小中学校それぞれ3校ずつに研究協力校になってもらい、道徳ワークショップという新しい学習方法を各学年1単元ずつ開発・実施し、その成果を道徳力アンケートとはがき新聞という新しい評価ツールを活用して検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

道徳力アンケートとはがき新聞という2つの評価ツールを、本研究では評価研究における統計的な分析手法により効果測定を通して改善し、完成版を開発した。こうした先行研究にない独自性の高い研究を遂行することにより、本研究では3年間の継続研究により、2時間小単元の単元モデルの新規開発と類型化、道徳ワークショップの教授法と学習方法の効果アセスメントを通じた新規開発とモデル化、そして評価ツールとしての道徳力アンケートとはがき新聞の完成と定式化といった、これからの道徳科教育における実用化可能性の高い、新しい学習モデルや学習ツールを実証的に創造することができた。

研究成果の概要（英文）：This research is based on the characteristics and establishment of a new learning method called a moral workshop, which is conducted by composing a two-hour small unit in the special subject "Morals" (hereinafter referred to as Morals), which was made into a subject by the new course of study. The purpose was to clarify the conditions empirically and practically through the development and evaluation of research target classes. Specifically, we will incorporate workshop learning as a unique learning method in the 2-hour small unit, newly construct a learning principle called a moral workshop, and have 3 elementary and junior high schools in Japan become research cooperation schools. A new learning method called moral workshop was developed and implemented for each grade, and the results were verified using new evaluation tools called moral competencies questionnaire and postcard newspapers.

研究分野：教育方法学

キーワード：道徳ワークショップ 2時間小単元 道徳力アンケート はがき新聞

1. 研究開始当初の背景

これまでの道徳教育に関わる学術研究においては、読み物教材の内容解釈に関する研究、内容項目の価値の分析と分類に関する研究、典型的な発問の類型化と構造的板書に関する研究などが行われてきた。しかし、道徳教育のための単元学習のあり方については、ほとんど学術的な研究成果はなく、唯一、押谷(1995)によって、総合単元的道徳学習の理論と実践の提案があるのみである。しかし、それも「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導」ではなく、単元を構成してもあくまで教科横断的な枠組みにおいて実施するものであり、道徳の時間で2時間小単元を構成するものではなかった。しかし新学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」が提唱され、道徳科の指導原則として「考え、議論する」ことが求められるようになった。このような時代的要請においては、道徳科の学びを1時間で完結させるだけでなく、カリキュラム・マネジメントによって必要に応じて2時間小単元を構成して、「考え、議論する」ための時間保障や、道徳科の目標に挙げられた「多面的・多角的に考える」ための時間保障、さらに、自分との関りにおいて「自分の生き方についての考えを深める」ための時間保障をすることが求められている。そこで本研究では学術的「問い」として、「道徳科教育において、子どもの思考・判断・表現に十分な時間保障をする同一内容項目・同一教材による2時間小単元を構成・実施することが、子どもの道徳性の向上にどのような効果をもたらすか？」を設定し、教科書教材を用いた新規単元を開発して、その効果を道徳力アンケートとはがき新聞によって継続的に測定・評価する実証的な研究を行いたい。なお、新規単元の開発と実施を行うに当たっては、田中(2010)が提唱するワークショップ形式の学習方法を採用し、多様な学習ツールとアクティビティーを取り入れた、子ども主体の対話を伴う活動構成を行う。

2. 研究の目的

本研究は、新学習指導要領によって教科化された「特別の教科 道徳」(以降、道徳科と称す)において、2時間小単元を構成して実施する道徳ワークショップという新しい学習方法の特徴と成立条件を、研究授業の開発と評価を通して実証的・実践的に明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

2時間小単元における特有な学び方としてワークショップ学習を取り入れ、道徳ワークショップという学習原理を新たに構成して、国内の小中学校それぞれ3校ずつに研究協力校になってもらい、道徳ワークショップという新しい学習方法を各学年1単元ずつ開発・実施し、その成果を道徳力アンケートとはがき新聞という新しい評価ツールを活用して検証した。

4. 研究成果

道徳力アンケートとはがき新聞という2つの評価ツールを、本研究では評価研究における統計的な分析手法により効果測定を通して改善し、完成版を開発した。こうした先行研究にない独自性の高い研究を遂行することにより、本研究では3年間の継続研究により、2時間小単元の単元モデルの新規開発と類型化、道徳ワークショップの教授法と学習方法の効果アセスメントを通じた新規開発とモデル化、そして評価ツールとしての道徳力アンケートとはがき新聞の完成と定式化といった、これからの道徳科教育における実用化可能性の高い、新しい学習モデルや学習ツールを実証的に創造することができた。

2時間小単元の授業モデルについては、以下のように類型化することができた。

【2時間小単元による道徳科授業の10タイプ】

1時間目は教科書教材に沿って考え(習得)、2時間目は身近な題材を自分事としてとらえる。(活用)

1時間目は教師の課題設定に沿って考え、2時間目は自分で問いを作って対話し解決する。

1時間目は主となる内容項目から考え、2時間目は副となる複数の内容項目を関連付けて考える。

1時間目は教科書教材に沿って考え、2時間目は関連する副教材を用いて多面的・多角的に考える。

1時間目は教科書教材に沿って考え、2時間目に物語の続きや行間を想像させて深く考えるようにする。

1 時間目は主に教科書教材に基づく読解と内容項目に関する自分の考えを交流し、2 時間目に一人ひとりが深く考えて成長した自分の考えを発表する。(理解の深まりの可視化)

1 時間目は教科書教材や関連資料をもとにして道徳的価値について論理的に思考し、2 時間目に道徳的行為の在り方に関して自分事として振り返りや自己宣言をしっかりと書いて発表することができる。

1 時間目は教科書教材を中心とした学級内での学習を行い、2 時間目に地域のゲストティーチャーや異学年・異学校種の児童生徒を呼んで多様な考え方や視点を取り入れた授業を展開できる。

1 時間目は道徳的行為の在り方を考えて自分が実践すべき行動を計画し、1 時間目の後の「道徳実践週間」の振り返りを2 時間目に行い考えを深める。

1 時間目は教科書教材の基礎的な読解を中心に行い、2 時間目に教材に内在する内容的・認識的な飛躍をスモールステップで2 時目に埋めていく。

【引用文献】

押谷由夫(2016)『道徳教育の理念と実践』放送大学教育振興会

田中博之(2010)『学級力が育つワークショップ学習のすすめ』金子書房

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中博之	4. 巻 5
2. 論文標題 ワークショップ型で話し合う	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 道徳教育	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

道徳科教育研究会 https://morallearning.org/

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------